

24) 産科婦人科

1. 診療体制と患者構成

- 1) 診療科スタッフ（学内講師以上）
 - 岩下 光利（教授、診療科長）
 - 小林 陽一（教授）
 - 古川 誠志（准教授）
 - 酒井 啓治（准教授）
 - 松本 浩範（講師）
 - 長島 隆（講師）
 - 百村 麻衣（医局長・学内講師）
 - 井澤 朋子（学内講師）
- 2) 常勤医師数・非常勤医師数
 - 常勤医師数 31名、非常勤医師数 5名
- 3) 指導医・専門医

日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医	22
日本周産期・新生児医学会認定周産期指導医	2
日本周産期・新生児医学会認定（新生児）専門医	1
日本周産期・新生児医学会認定新生児蘇生法専門インストラクター	2
日本内分泌学会認定専門医	2
日本生殖医学会認定生殖指導医	1
日本医師会認定母体保護法指定医	2
日本臨床腫瘍学会認定暫定専門医	1
日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医	5
日本臨床細胞学会認定細胞診専門医	4
日本がん治療認定医機構がん治療認定医および暫定教育医	1
日本がん治療認定機構がん治療認定医	4
日本産科婦人科内視鏡学会認定技術認定医	1
日本外科内視鏡学会認定技術認定医	1
厚生労働省認定臨床研修指導医	1
日本サイトメトリー学会認定技術者	1
日本臨床遺伝専門医	2
日本抗加齢医学会認定抗加齢医学専門医	1

多摩地区の拠点病院として産婦人科の3大領域である、周産期医療、婦人科腫瘍、生殖医療のすべてにおいて高度な医療提供体制を備えている。

周産期領域

救命救急対応総合周産期母子医療センター（スーパー総合周産期センター）を併設しており24時間態勢でハイリスク妊娠および分娩・管理にあたっている。また、地域の産科医療の利便性の向上を目指し、2007年よりセミオープンシステムを導入。現時点で近隣病院34施設との連携を行っている(参照 総合周産期母子医療センター P205)。

婦人科腫瘍領域

当科では現在5名の婦人科腫瘍専門医を中心として、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、膣・外阴がん、絨毛性疾患などの悪性腫瘍について、手術、手術前および手術後の化学療法、放射線治療等の治療を行っている。早期子宮体がんに対しては腹腔鏡下手術も行っている。抗がん剤治療は主とし

て外来化学療法室で行っており、また全国規模の臨床試験にも積極的に参加し、患者さんに最新・最良の治療が受けられるよう心がけている。腫瘍外来では、癌治療専門医による前がん病変の管理や、がん治療後の患者様の定期検診を行っている。がん治療により早期に閉経となってしまった患者さんには症例に応じてホルモン補充療法を行い、早期閉経による合併症（骨粗鬆症、脂質異常症など）に対して予防的治療を行っている。このような患者様には「すこやか女性外来」という女性医学専門医による外来を開設し、検査・治療を行っている。再発がんの患者さんに対しても抗がん剤治療や放射線治療、緩和医療を行い、患者さんのQOL向上に努めている。子宮筋腫や子宮腺筋症、良性卵巣腫瘍などの良性疾患ではより侵襲の少ない腹腔鏡下手術を中心に治療を行っている。骨盤臓器脱に関しては、従来からの子宮全摘出+陰壁形成術などに加え、子宮を摘出せず陰壁切除もしないメッシュ法を用いた手術を症状や状態に応じて行っている。

生殖内分泌領域（不妊症・不育症）

1年を超えて妊娠できない不妊症の方に対し、タイミング療法や人工授精などの一般不妊治療のほか、体外受精、顕微授精、新鮮胚移植、凍結融解胚移植など、高度な生殖補助医療も行っている。体外受精に必要な採卵は、不妊検査により得られた結果をもとに、患者様の状態に合わせて低刺激法、中刺激法、高刺激法（ロング法、ショート法、アンタゴニスト法）など、多くの卵巣刺激法を使い分けて行っている。また、人工授精などの際に、パートナーのご都合により精子を持参できない方には、精子の凍結保存も実施している。子宮筋腫や卵巣嚢腫などの婦人科疾患や、内科疾患によって個人クリニックでは治療できない不妊症の方には、不妊治療のために手術を行うほか、他科と連携して疾患の治療も同時に行うなど、大学病院の強みを生かして積極的に治療を行っている。妊娠できても流産を繰り返してしまう反復流産や習慣流産の方に対しては、流産の原因となり得る全ての自己抗体を検査するほか、夫婦の染色体検査も含めた精密検査を行うことで流産の原因を調べ、治療に結びつけている。

4) 診療実績

専門外来表/予約制

	月	火	水	木	金
専門外来	超音波・遺伝相談 松島・田中	不妊 長島・松澤・鳥海	腫瘍外来 小林 第1水曜15時より 「健やか女性外来（更年期障害）」 予約のみ 柳本	腫瘍外来1 松本 腫瘍外来2 澁谷	妊 長島・松澤・鳥海

産科

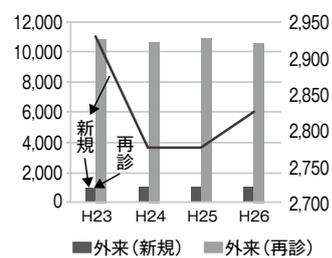
外来総数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来（新規）	964	1,008	1,018	1,058	1,023
外来（再診）	10,947	10,680	10,927	10,638	11,042
助産師外来における妊婦健診	2,928	2,778	2,777	2,827	2,898

※分娩数の急増に伴いやむを得ず平成21より正常分娩の数を制限している。

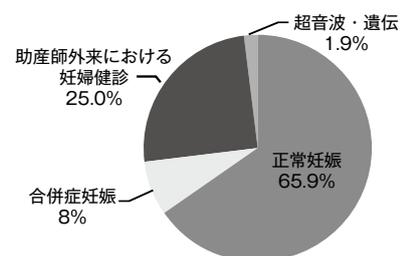
本来の使命であるハイリスク妊娠管理、母体搬送や新生児搬送受入れを増やしていけるよう努力を続けている。

助産師外来における妊婦健診



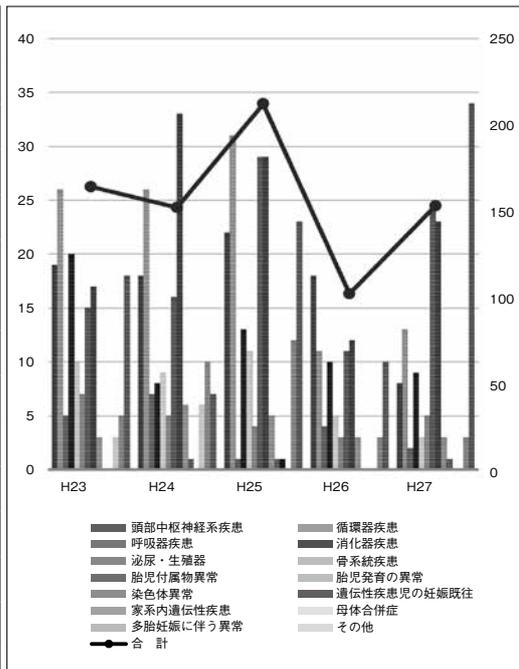
外来における主な例数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
正常妊娠	7,822	8,013	7,167	7,529	8,080
合併症妊娠	810	856	778	815	841
助産師外来における妊婦健診	2,903	2,736	2,716	2,790	2,898
超音波・遺伝	384	372	212	102	153



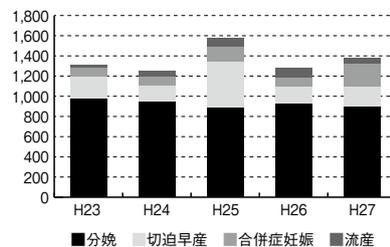
■超音波・遺伝外来の内訳

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1 頭部中枢神経系疾患	19	18	22	18	8
2 循環器疾患	26	26	31	11	13
3 呼吸器疾患	5	7	1	4	2
(うち横隔膜ヘルニア)	1	2	1	1	1
4 消化器疾患	20	8	13	10	9
5 泌尿・生殖器	10	9	11	5	3
6 骨系統疾患	7	5	4	3	5
7 胎児付属物異常	15	16	29	11	24
(うち臍帯・胎盤異常)	5	6	15	4	8
(うち羊水異常)	10	10	14	7	16
8 胎児発育の異常	17	33	29	12	23
9 染色体異常	3	6	5	3	3
10 遺伝性疾患児の妊娠既往	0	1	1	0	1
11 家系内遺伝性疾患	0	0	1	0	0
12 母体合併症	3	6	0	0	0
13 多胎妊娠に伴う異常	5	10	12	3	3
14 その他	18	7	23	10	34
合計	164	152	212	102	153



■入院診療実績

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
分娩	976	946	883	928	898
切迫早産	219	154	458	161	196
合併症妊娠	86	92	149	97	227
流産	25	64	90	94	57



■週数別分娩件数※

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
～28週	14	14	9	5	10
28週～33週未満	46	60	37	56	43
34週以上 36週未満	122	119	116	106	84
37週～41週	728	659	715	710	762
42週～	5	3	4	5	1
不明	2	0	2	0	0
合計件数	917	855	883	882	900

■出生児体重別例人数※

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1,000g未満	14	14	9	12	11
1,000g以上 1,500g未満	24	37	32	34	23
合計人数	38	51	41	46	34

※週数で分類した数は分娩数（双胎も三胎も1分娩）、体重別分類は出生児数（双胎は2人、三胎は3人）なので、週数別分類のほうが少なくなっている。また、双胎の中には1児が12-21週の死産の症例もあるので（分娩数も出生児数も1）合計数は一致しない。

■分娩様式別例数

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
経陰分娩	537	501	522	569	541
帝王切開	380	354	357	339	357
合 計	917	855	879	908	898

■出生児数別例数

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
単 胎	874	812	826	855	842
双 胎	42	43	53	52	57
三 胎	1	0	4	1	1

④手術実績（主要疾患数）

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
選択的帝王切開術	238	188	215	190	200
緊急帝王切開術	171	169	146	149	162
異所性妊娠手術	17	16	10	17	13
（異所性妊娠開腹手術）	10	10	6	7	5
（異所性妊娠腹腔鏡下手術）	7	6	4	10	8
子宮頸管縫縮術	27	15	17	11	13
（マクドナルド氏法）	17	9	8	11	6
（シロッカー氏法）	10	6	9	0	9
単純子宮摘出（妊娠子宮摘出術）	2	2	4	3	5
陰壁・後腹膜血腫除去術	3	10	2	1	0
その他	10	29	24	11	8

⑤死亡および剖検数

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
死亡患者数	0	0	0	0	0
剖検数	0	0	0	0	0

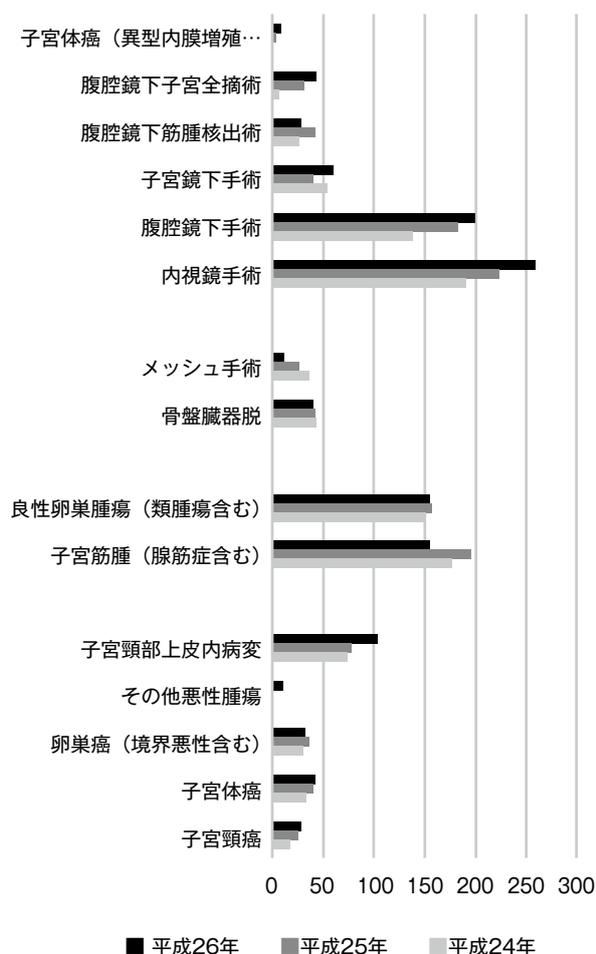
婦人科

■外来総数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来（新規）	2,205	1,996	1,857	1,830	1,792	1,782
外来（再診）	20,921	20,319	21,138	21,260	21,294	20,604

■手術実績（主要疾患数）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
子宮頸癌	18	27	28	23
子宮体癌	35	41	42	49
卵巣癌（境界悪性含む）	31	36	32	24
その他悪性腫瘍	2	2	11	4
子宮頸部上皮内病変	74	79	104	78
子宮筋腫（腺筋症含む）	180	197	158	172
良性卵巣腫瘍（類腫瘍含む）	153	160	158	117
骨盤臓器脱	44	42	40	42
メッシュ手術	36	27	12	20
内視鏡手術	193	225	262	226
腹腔鏡下手術	139	185	202	183
子宮鏡下手術	54	40	60	43
腹腔鏡下筋腫核出術	27	42	29	45
腹腔鏡下子宮全摘術	6	32	44	44
子宮体癌（異型内膜増殖症含む）	0	4	9	13



- ・骨盤臓器脱手術は子宮を温存、膣壁切除も行っていない。永続する強度を持ったメッシュを使用して手術を行う。術後に腔の状態が本来の自然な形態に復帰する身体に優しい手術法である。
- ・子宮筋腫の手術はなるべく低侵襲な方法で行うことを心がけている。
- ・若い女性の卵巣嚢腫の手術では将来の妊娠性のことも考慮して行なっている。
- ・内視鏡手術専用の手術室がある。
- ・近年増加傾向にある血栓症に対する対策も十分行っている。

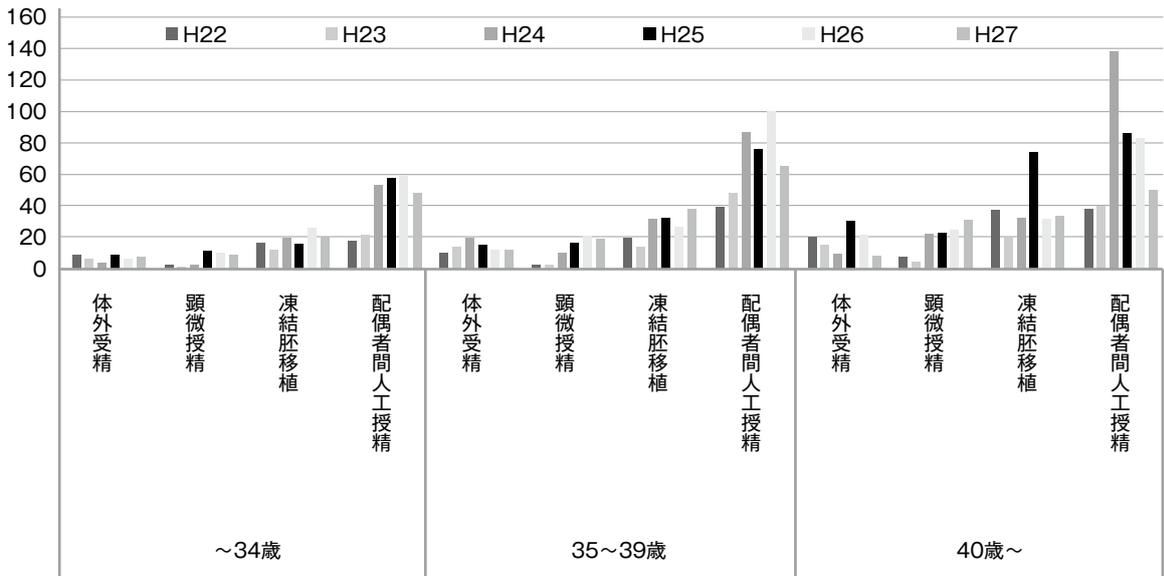
■死亡および剖検数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
死亡患者数	19	24	23	16	22	27
剖検数	0	0	0	0	0	0

生殖医療（生殖内分泌・不妊領域）

■生殖補助医療数（年齢別）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
～34歳	体外受精	8	6	3	8	5	6
	顕微授精	2	1	2	11	10	9
	凍結胚移植	16	11	19	15	26	20
	配偶者間人工授精	18	21	53	58	59	48
35～39歳	体外受精	10	13	19	15	12	12
	顕微授精	2	2	9	16	20	19
	凍結胚移植	19	13	31	32	26	38
	配偶者間人工授精	39	48	87	75	100	65
40歳～	体外受精	20	15	33	30	21	8
	顕微授精	7	4	9	22	24	30
	凍結胚移植	37	19	32	74	31	34
	配偶者間人工授精	38	39	138	86	83	51
合計		216	190	435	442	417	340



2. 先進的医療への取り組み

周産期領域

- ・先天性心疾患に対する超音波検査
- ・胎児MRI検査
- ・胎児に対する侵襲的検査及び治療
 - 臍帯穿刺（胎児採血）、胸腔・腹腔・膀胱穿刺
 - 胸腔－羊水腔シャント造設術
- ・前期破水に対する羊水補充療法ならびに肺形成評価
- ・癒着胎盤に対する動脈塞栓術（動脈塞栓術併用帝王切開術も含）

婦人科領域

- ・腹腔鏡下手術（卵巣腫瘍, 子宮筋腫, 卵管妊娠）
- ・子宮鏡下手術（粘膜下筋腫, 子宮内膜ポリープ）
- ・選択的子宮動脈塞栓術（子宮筋腫）
- ・広汎子宮全摘術＋リンパ節郭清

生殖内分泌・不妊領域

[不妊症]

- ・タイミング療法
- ・人工授精
- ・高度生殖補助治療
 1. 過排卵刺激（体外受精か顕微授精のための採卵に対して施行）
 - 低刺激法、中刺激法、高刺激法を施行
 2. スクラッチ法（反復胚移植不成功例に対して施行）
 3. 体外受精（難治性不妊に対して施行）
 4. 顕微授精（男性因子または原因不明不妊に対して施行）
 5. 新鮮胚移植（排卵数が少ない場合に施行）
 6. 凍結融解胚移植（採卵数が多い場合に施行）

[不育種]

- ・不育症検査（自己抗体、凝固能、子宮卵造影、夫婦染色体検査など）
- ・反復流産および習慣性流産の患者に対する低用量アスピリン両方
- ・反復流産および習慣性流産の患者に対するヘパリン療法

3. 低侵襲性医療の施行項目と施行数

施行項目	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	施行項目	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
腹腔鏡下手術	101	139	185	202	183	子宮鏡下手術	37	54	40	60	43
選択的子宮動脈塞栓術 (婦人科)	1	0	0	0	0	選択的子宮動脈塞栓術 (産科)	7	10	9	7	8

